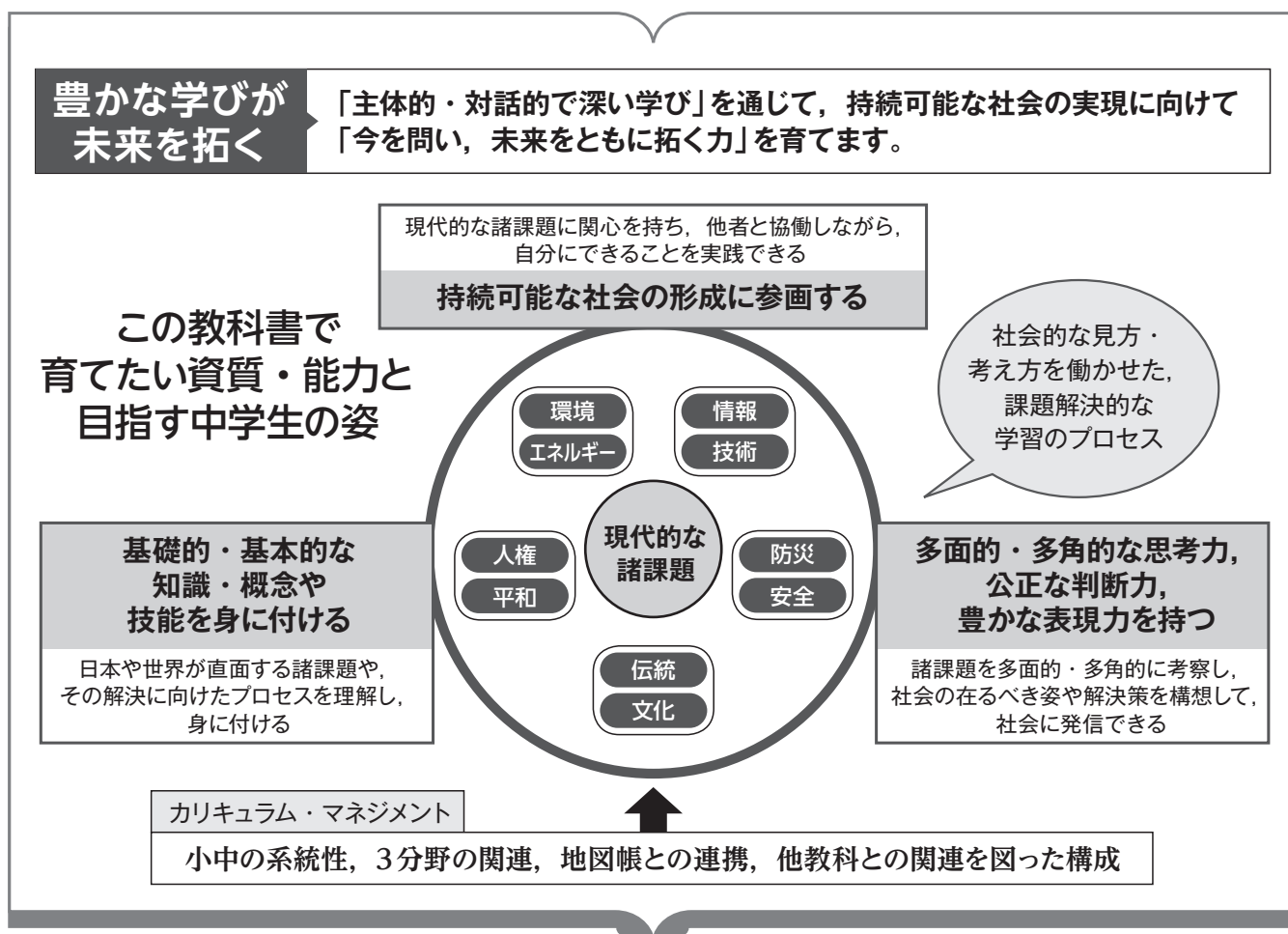


編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-27	中学校	社会	社会(歴史的分野)	第1～3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	歴史 705	新しい社会 歴史		

1. 編修の基本方針



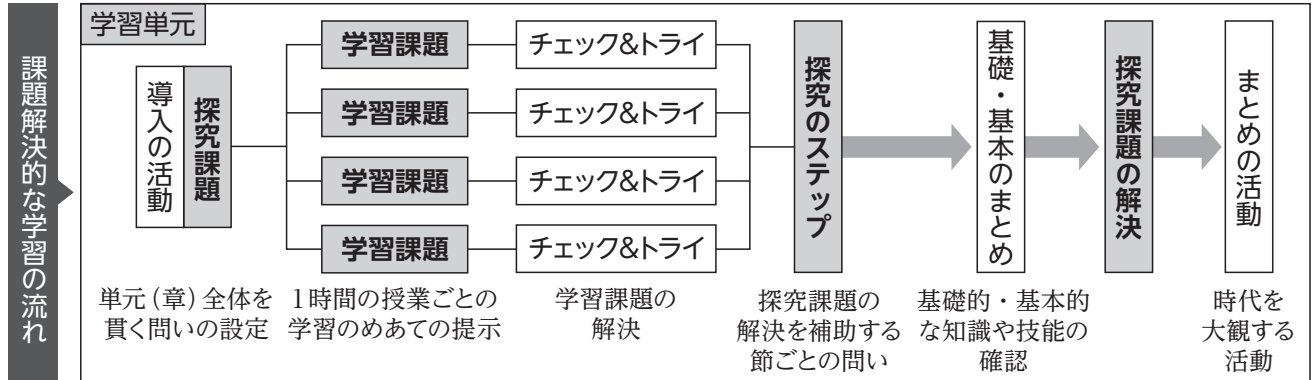
1. 教育基本法の「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」の育成という教育の目的に資するために、以下の資質・能力を育成できるようにしました。
 - ①社会に対する関心を高め、現代社会の在りようや、我が国や世界が直面する現代的な諸課題を正しく認識するための、社会科の基礎的・基本的な知識や概念、技能を確実に身に付けられます。
 - ②我が国や世界が直面する現代的な諸課題を考察し、解決策を考えるための、多面的・多角的な思考力、公正な判断力、豊かな表現力を身に付けられます。
 - ③グローバル化や人工知能といった技術革新、少子高齢化など、急速に変化する現代社会にあって、我が国や世界が直面する諸課題を他者と協働して解決し、持続可能な社会を実現するための、主体的に社会に参画する意識や態度を養えます。
2. 効果的なカリキュラム構成のために、以下の点に留意しました。
 - ①小・中学校を合わせた7年間で学習する「社会科」の位置付けを重視し、小学校社会科との系統性を高め、中学校社会科の地理・歴史・公民3分野の関連を図り、併せて地図帳と連携した学習を展開できます。
 - ②カリキュラム・マネジメントの観点から、他教科の学習内容との関連を図り、中学校での学習全体で教育の目的が実現できます。

特色 1 知識・概念や技能の定着 確実な定着に導く知識・技能の体系化

- ・ 中学校社会科で習得すべき知識や概念を、発達段階に応じて過不足なく盛り込みました。特に、歴史学習を進める上で生徒がたずまずきやすい事項は、巻末の「用語解説」で補足説明し、確実に定着できます。
- ・ 歴史学習に必要な技能については、資料の読み取り方や調べ学習を行う際の手法などを「スキル・アップ」で紹介し、その技能を活用するコーナーも設けることで、発達段階に応じて確実に定着できます。

特色 2 思考力・判断力・表現力の涵養 問いを軸にした課題解決的な構成と「見方・考え方」の活用

- ・ 各単元(章)の学習を、単元全体を貫く問いである「探究課題」と、節ごとの課題である「探究のステップ」、1単位時間の学習のめあてである「学習課題」の3段階の問いで構造化し、細かいステップで課題を解決していくことで、思考・判断した内容を、適切に表現する力を身に付けられます。



- ・ 「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」という歴史的な見方・考え方を歴史学習の冒頭(第1章1節)で捉え、それ以降の「チェック&トライ」「探究のステップ」「探究課題の解決」「見方・考え方コーナー」などで働かせることで、思考・判断を深められます。

特色 3 課題を解決し未来を拓く力の育成 持続可能な社会の形成に主体的に参画する力の育成

- ・ 領土をめぐる問題や地球環境問題など、我が国や国際社会が抱える現代的な諸課題の歴史的な経緯を取り上げることで、その背景に目を向け、解決策について具体的に考えられます。
- ・ 歴史学習の過程で「みんなでチャレンジ」などの対話的な学習の場面を設けたり、歴史学習のまとめで学習内容を振り返り、持続可能な社会の実現に向けて構想したりすることで、知識・概念・技能や思考力・判断力・表現力を活用して積極的に社会参画し、他者と協働しながらより良い社会を築こうとする意識と態度を養えます。

特色 4 カリキュラム・マネジメント 小中の系統性、3分野の関連、地図帳との連携、他教科との関連

- ・ 第1章に小学校社会科で学習した人物・文化財・出来事を振り返る活動を設けるとともに、各単元(章)の導入部でも小学校の学習内容を用語や写真で振り返ることで、小学校の学習から中学校の学習へと円滑に接続できます。
- ・ 持続可能な社会の実現のために解決すべき、「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」に関わる課題を、特設ページ「もっと地理・歴史・公民」に3分野共通で取り上げることで、地理・歴史・公民それぞれの視点から考察できます(下表)。

●3分野の関連で扱った「もっと地理・歴史・公民」

テーマ/教材	地理的分野	歴史的分野	公民的分野
環境・エネルギー 日本のエネルギー問題	日本のエネルギーのあらまし	日本のエネルギーのこれまで	これからの日本のエネルギーを考える
人権・平和 アイヌ民族	現代に受けつがれるアイヌ民族の文化	アイヌ文化とその継承	先住民族としてのアイヌ民族
伝統・文化 オリンピック・パラリンピック	オリンピック・パラリンピックと東京	オリンピック・パラリンピックと日本	オリンピック・パラリンピックと日本の心
防災・安全 震災・復興	震災から命を守る	震災の記憶を語りつぐ	東日本大震災からの復興と防災—仙台市を例に考える
情報・技術 情報化による社会の変化	情報化がアフリカ社会を変える	メディアの発達が日本を変えた	新しい情報技術で社会が変わる

- ・ 同一の写真・グラフ・地図を3分野共通で掲載し、他分野との関連をマークで示すことで、一つの事象を地理・歴史・公民の各分野の視点から多面的・多角的に考察する力を育てられます。
- ・ 3年間の社会科学学習全体で、教科用図書地図との連携を図り、学習内容の理解を深められます。
- ・ 他教科の学習との関連箇所にはマークを付して連携を図ることで、社会的事象について多面的・多角的に考察できます(本紙5ページ参照)。

2. 対照表

○教育基本法第2条の各号に定められた教育の目標を実現するために、教科書全体を通して、以下のような配慮をしています。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所																												
各単元に共通する内容																														
	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な見方・考え方を活用して取り組む場面に「見方・考え方」のコーナーを設けたり、マークを付したりして、より深い思考・判断ができます(第1号)。 <p style="text-align: right;">→182ページ</p>	<p>新聞紙条例(1875年) (部分要約)</p> <p>第12条 新聞紙あるいは雑誌や他の報道において、人をそのかして罪を犯させた者は、犯した者と同罪とする。…</p> <p>第13条 政府をたおし、国家をくつがえすような言論をのせ、さわぎをあおろうとする者は、禁獄1年から3年とする。</p> <p>①年には入るが、労役をしないばつ。</p>																												
	<ul style="list-style-type: none"> 小集団での参加型学習「みんなでチャレンジ」を設けることで、本文での学習内容を確実に理解させ、話し合いなどの対話的な活動を通じて学習を深められます(第1号・第2号)。 <p style="text-align: right;">→132ページ</p>	<p>見方・考え方 ③の法律はどのような目的で出されたものか、背景となる出来事に着目して考えましょう。</p>																												
	<ul style="list-style-type: none"> 学習に必要な技能を身に付けさせる「スキル・アップ」を、「集める」「読み取る」「まとめる」の三つの側面で設け、歴史学習に必要な技能を確実に定着できます(第1号)。 	<p>みんなでチャレンジ 政策のちがいを考えよう</p> <p>(1)田沼意次と松平定信の財政難に対する政策を比べて、共通点と異なる点を挙げましょう。</p> <p>(2)田沼意次の政治と寛政の改革の背景を、p.130～131の産業や農村の変化をふまえてまとめましょう。</p> <p>(3) (1)(2)を基に、意次と定信の政策の特色を、グループで話し合いましょう。</p>																												
	<ul style="list-style-type: none"> 小学校社会科や「スキル・アップ」で身に付けた技能を活用して取り組む場面には、「集める」「読み取る」「まとめる」のコーナーなどを設け、各技能を定着・習熟できます(第1号)。 	<p>26, 31, 41, 43, 75 ページなど全体で 74 か所</p>																												
	<ul style="list-style-type: none"> 絵画資料を大きく取り上げる「資料から発見!」を設け、資料読解の技能を高めるとともに、文化財を通じて我が国の伝統と文化に誇りを持てます(第1号・第5号)。 <p style="text-align: right;">→88-89ページ</p>																													
	<ul style="list-style-type: none"> 本文での学習内容に関連した「もっと歴史」を設け、本文の学習内容を基に、もっと深めたり、広げたり、異なる視点で捉えたりしながら学習できます(第1号)。 	<p>52-53, 88-89, 138-139, 174-175 ページ</p>																												
	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の歴史を調べる学習の事例を各時代に設け、郷土の歴史に目を向け、郷土を愛する心を育てられます(第5号)。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時代</th> <th>事例</th> <th>地域</th> <th>ページ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>古代</td> <td>大陸への玄関口・福岡</td> <td>福岡県福岡市</td> <td>56-57</td> </tr> <tr> <td>中世</td> <td>戦国時代の城下町・一乗谷</td> <td>福井県福井市</td> <td>92-93</td> </tr> <tr> <td>近世</td> <td>会津藩の政治と産業</td> <td>福島県会津若松市</td> <td>142-143</td> </tr> <tr> <td>近代前半</td> <td>多文化共生都市・神戸</td> <td>兵庫県神戸市</td> <td>200-201</td> </tr> <tr> <td>近代後半</td> <td>東京大空襲の記憶を伝える</td> <td>東京都台東区・墨田区</td> <td>244-245</td> </tr> <tr> <td>現代</td> <td>広島復興と平和への思い</td> <td>広島県広島市</td> <td>276-277</td> </tr> </tbody> </table>	時代	事例	地域	ページ	古代	大陸への玄関口・福岡	福岡県福岡市	56-57	中世	戦国時代の城下町・一乗谷	福井県福井市	92-93	近世	会津藩の政治と産業	福島県会津若松市	142-143	近代前半	多文化共生都市・神戸	兵庫県神戸市	200-201	近代後半	東京大空襲の記憶を伝える	東京都台東区・墨田区	244-245	現代	広島復興と平和への思い	広島県広島市	276-277
時代	事例	地域	ページ																											
古代	大陸への玄関口・福岡	福岡県福岡市	56-57																											
中世	戦国時代の城下町・一乗谷	福井県福井市	92-93																											
近世	会津藩の政治と産業	福島県会津若松市	142-143																											
近代前半	多文化共生都市・神戸	兵庫県神戸市	200-201																											
近代後半	東京大空襲の記憶を伝える	東京都台東区・墨田区	244-245																											
現代	広島復興と平和への思い	広島県広島市	276-277																											
	<ul style="list-style-type: none"> 本文での学習内容を補充する「歴史にアクセス」を設け、関連した知識を確実に習得できます(第1号)。 	<p>49, 229, 253 ページなど全体で 36 か所</p>																												
人物コラム	<ul style="list-style-type: none"> 歴史上の人物を扱ったコラムを豊富に設け、我が国の歴史に誇りと愛情を持てます。また、近代以降の人物については出身県を入れることで、郷土の偉人を確認できます(第5号)。 	<p>48, 68, 189, 212, 265 ページなど全体で 57 か所</p>																												
平易な文章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い視野から社会的事象の意味を確実に理解し、考察できるように、文章を平易に記述しました(第1号)。 	<p>全体</p>																												
国宝 重要文化財 世界遺産 世界の記憶 無形文化遺産	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の中で残されてきた国宝や重要文化財、世界自然遺産・文化遺産、世界の記憶、無形文化遺産にはマークを付すことで、我が国や世界の伝統と文化に目を向け、尊重する態度を養えます(第5号)。 	<p>全体</p>																												

単元ごとの内容		
巻頭・巻末	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な国宝・重要文化財や主な史跡を紹介し、我が国の伝統や文化を理解できます(第5号)。 巻頭言で、持続可能な社会の実現に向けて歴史から学ぶことの重要性を取り上げ、より良い社会の形成に主体的に参画する態度を養えます(第3号)。 	巻頭1-巻頭2, 巻末2-巻末3, 巻頭3-1ページ
第1章 歴史へのとびら	<ul style="list-style-type: none"> 小学校で学習した人物や文化財などのイラストを大きく掲載し、歴史学習への興味・関心を高めながら、円滑に導入できます(第1号)。 歴史的な見方・考え方を解説するとともに、年表に関する「スキル・アップ」を設け、歴史学習の基盤となる見方・考え方や技能を習得できます(第1号)。 身近な地域の歴史を調べる際の手順を丁寧に説明し、地域社会に積極的に関わり、主体的に社会の形成に参画する意識と態度を養えます(第3号)。 	6-7 ページ 8-13 ページ 14-17 ページ
	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>歴史的な見方・考え方 4 歴史上の出来事は、ひとりで起こるわけではなく、背景や原因になった出来事や、影響を受けた出来事があります。左の(3)のように、出来事の「相互の関連」を考えることで、歴史をより深くとらえることができます。</p> </div> <p style="text-align: right;">→13ページ</p>	
第2章 古代までの日本	<ul style="list-style-type: none"> 歴史地図・文献資料・系図・絵巻物の読み取りに関する「スキル・アップ」を設け、歴史学習で重要な技能を養い、主体的に学習を進められます(第1号)。 日本の神話やそれを題材にした神楽を取り上げる「もっと歴史」を設け、我が国の伝統が現在の社会にも息づいていることが理解できます(第5号)。 	25, 33, 37, 53 ページ 54-55 ページ
第3章 中世の日本	<ul style="list-style-type: none"> モンゴル帝国の拡大によるユーラシア世界の成立や、東アジアにおける朝貢について扱い、我が国の歴史を国際的な視点から捉えられます(第5号)。 現代まで続く文化を屏風絵から読み取らせる「資料から発見！」や、琉球文化を扱う「もっと歴史」を設け、我が国の伝統や文化を捉えられます(第5号)。 	74-75, 90 ページ 88-89, 90-91 ページ
第4章 近世の日本	<ul style="list-style-type: none"> 浮世絵を読み取る「資料から発見！」を設け、日本の文化が世界に影響を与えたことを取り上げ、日本の文化の国際性を理解できます(第5号)。 アイヌ文化について扱う「もっと歴史」を設け、我が国における文化の多様性に気付き、多様性を尊重する態度を養えます(第3号)。 	138-139 ページ 140-141 ページ
第5章 開国と近代日本の歩み	<ul style="list-style-type: none"> 我が国が抱える領土をめぐる問題の背景を取り上げ、領土編入の経緯について理解し、国際平和のために解決すべき課題を捉えられます(第5号)。 公害問題の原点といわれる足尾銅山鉱毒事件を「歴史にアクセス」で取り上げ、環境保全への意識を高められます(第4号)。 「地域の歴史を調べよう」で、地域における宗教や文化の多様性と共生について取り上げ、多文化共生の態度を養えます(第3号)。 	178-181 ページ 195 ページ 200-201 ページ
第6章 二度の世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> 人物コラムや「歴史にアクセス」で、国際的に活躍し評価される日本人を取り上げ、勤労観の基礎を養えます(第2号)。 「地域の歴史を調べよう」で、生徒が平和について考察・構想し発信する活動を取り上げ、国際平和に向けて主体的に取り組む態度を養えます(第5号)。 	212, 233 ページ 244-245 ページ
第7章 現代の日本と私たち	<ul style="list-style-type: none"> 日本の近現代のエネルギーの歴史について取り上げる「もっと歴史」を設け、エネルギー問題に対する意識を高められます(第4号)。 歴史上の震災とその教訓の継承を取り上げる「もっと歴史」を設け、防災意識を高め、安全なまちづくりに主体的に参画する意識を養えます(第3号)。 「地域の歴史を調べよう」で、地域の将来について構想し提案する活動を取り上げ、地域づくりに主体的に参画する態度を養えます(第3号)。 	272-273 ページ 274-275 ページ 276-277 ページ
	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>4 将来の広島構想 現在</p> <p>調査を通じて、広島の復興が、国内外のさまざまな人たちによる取り組みや支援に支えられてきたことがわかりました。将来に向けて、平和都市としての広島の課題を考え、自分たちができることや、将来の広島の色について話し合いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平和記念都市として多くの人が訪れるようになった。 ●復興した家は、紛争地の人たちにとっても希望となっている。 ●今の人たちは、寺光忠のような理想を意識していないのではないか。 ●核兵器の廃絶に向けたメッセージの発信がもっと必要ではないか。 <p style="text-align: right;">◎教室での話し合い</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>5 調査・考察した内容の発表と提案</p> <p>私たちは、広島の復興について調べた内容と課題、将来の広島についての構想を、クラスでプレゼンテーションすることにしました。プレゼンテーション・ソフトを使って発表のポイントを事前に整理し、それを示しながら発表しました。</p> <p style="text-align: right;">◎クラスでのプレゼンテーション</p> </div> <p style="text-align: right;">→277ページ</p>	

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

■ 全ての生徒が使いやすい紙面への配慮 ～特別支援教育への配慮やユニバーサルデザインの取り組み～

紙面の読み取りやすさの向上

- ・特別支援教育の観点から、立体感や陰影のある表現を省いた「フラットデザイン」を採用し、従来掲載していたキャラクターを本文ページからなくすことで、学習者が学習に必要な情報に集中できるようにしました。
- ・資料の掲載部分を、文字などの読み取りに支障のない地色を敷いて区別することで、紙面の構造を明確化し、特別支援教育の観点での学習のしやすさを向上させました。
- ・ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用することで、文字の視認性を向上させました。
- ・振り仮名には読み取りやすいゴシック体を採用し、視認性をしっかりと確保した上で、黒色を抑えることで、振り仮名が多い文章での雑然とした印象を軽減し、読み取りやすさを向上させました。

色覚特性への配慮

- ・グラフや地図などでは、色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用しました。また、文字に縁取りをしたり、凡例を使用しないで図中に直接示すようにしたり、グラフでは読み取りづらい破線や点線を減らしたりしました。

■ 今日的な課題への取り組み～五つのテーマで持続可能な社会の

実現に向けた諸課題を捉えられる～

➡242ページ

- ・本紙2ページの表で挙げた、3分野の関連で扱っている内容をはじめ、「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の五つのテーマで、持続可能な社会の実現のために解決すべき課題を「歴史にアクセス」や「もっと歴史」などで取り上げ、テーマをマークで示すことで、現代社会の諸課題を捉え、その解決に向けた構想ができるようにしました。 ➡51, 130, 239, 240-241ページなど
- ・再生紙と植物油インキを使用し、環境に配慮しました。 ➡274ページ

■ 学校教育を取り巻く諸課題への取り組み～より良い指導や学びを

サポートする～

指導しやすさ・学びやすさの確保

- ・様々な教科の教科書を持ち歩く生徒の負担に配慮して、過度な重量にならないように、ページ数を抑え、軽くて裏写りせず、強度の高い紙を使用しました。
- ・必要な学習内容をしっかりと確保しながら、単元や1単位時間の紙面の構造を明確化することで、先生方の教材研究や授業準備の時間を短縮できます。
- ・資料には見開き単位で番号を付け、対応する本文の上に当該の図番号を付すなど、先生方が授業で指示しやすくなっています。

カリキュラム・マネジメントの支援

- ・社会科以外の様々な教科でも取り扱っている学習内容には、マークを付すことで、他教科の学習との連携を通して、社会的現象や現代的な諸課題を、より深く理解できます。 ➡274ページ

➡15, 51, 195, 273, 274ページなど

教育のICT化への取り組み

- ・インターネットを活用した学習が効果的な部分にはDマークや二次元コードを付して、専用のウェブページなどから、学習をサポートする情報が得られます。関連する他分野の紙面や、他教科の紙面も参照できます。

➡8, 18, 165, 180ページなど

➡8ページのDマークのコンテンツ

- ・制度化された学習者用デジタル教科書を発行予定です。

2 さまざまな身分と暮らし

2 さまざまな身分と暮らし

もっと歴史 関連するページ 239, 240, 241, 242, 243 地理や公民の関連ページ

オリンピック・パラリンピックと日本

オリンピック・パラリンピックの発展と日本の関わりについて考えてみましょう。



近代オリンピックの成立
古代ギリシャでは、紀元前9世紀ごろからオリンピックで「オリンピック祭典競技」が開かれ、4年に一度、各都市国家(ポリス)の代表が陸上競技や格闘技を競い合いました。これは宗教行事であったため、この間、ポリスは戦争を中断して参加しました。これを「聖なる休戦」といいます。古代オリンピックは、393年を最後として幕を閉じました。
それから1500年あまり後の1896(明治29)年、フランスの教育者であったクーベルタン伯爵が、近代オリンピックの第1回大会がギリシャのアテネで開催されました。クーベルタンが提えたオリンピックの精神とは、スポーツを通じて心身を向上させ、文化・価値などをさまざまな国を繋ぎこなし、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でより良い世界の実現に貢献することでした。
1924(大正13)年を境に冬季大会が独立しました。その後、2020年の東京大会に至るまで、夏季32回、冬季23回の大会を重ねることにしています。
また、パラリンピックは、イギリスが始まった。障がいのある人々を対象とする国際的な競技大会が起源で、現在では、オリンピックの開催年に、同じ都市で行われています。
日本のオリンピックへの参加

自筆原稿がえがかれた古代ギリシャの陶器(アテネ)のポリス(美術所蔵)

ピエール・ド・クーベルタン(1863～1937)

オリンピック・シンボル、五つの輪は、アジア・ヨーロッパ・アフリカ・南北アメリカ・オセアニアの五つの大陸(地域)を表しています。

もっと歴史 関連するページ 239, 240, 241, 242, 243 地理や公民の関連ページ

震災の記憶を語りつぐ

震災の記憶をどのように次世代に語りついでいけばよいのか、考えてみましょう。

599(徳古)	大和地方で地震(日本最古の地震被害の記録)
869(貞観11)	西経三陸沖地震、三陸沿岸で津波被害
1293(永元)	鎌倉地震、死者2万3000人あまり
1498(応永7)	明応地震、伊豆から伊勢で津波被害
1605(慶長9)	関東東海・南海地震、房総から九州南部で津波被害
1703(元禄16)	元禄地震、房総から伊豆で津波被害
1707(元禄14)	宝永地震、伊豆から九州南部で津波被害、死者2万人以上
1854(安政元)	安政東海・南海地震(p.139)、房総から最東で津波被害
1891(明治24)	美濃地震、死者7273人
1896(明治29)	明治三陸沖地震、北海道から宮城で津波被害、死者2万1999人
1923(大正12)	関東大震災(p.221)、死者・行方不明者10万7538人
1933(昭和8)	昭和三陸沖地震、三陸沿岸で津波被害、死者・行方不明者3064人
1946(昭和21)	昭和南海地震、静岡から九州で津波被害、死者1330人
1995(平成7)	阪神・淡路大震災(p.270)、死者・行方不明者6437人
2004(平成16)	新潟中越地震、死者68人
2011(平成23)	東日本大震災(p.271)、死者・行方不明者2万2199人
2016(平成28)	熊本大震災(p.270)、死者50人
2018(平成30)	北海道胆振東部地震、死者41人

日本の震災の歴史(資料年表)2019年ほか

「稲むらの火」
1854(安政元)年11月4日(前編では12月23日)に起こった安政東海地震は、駿河湾から遠州灘沖を震源とする海底地震で、マグニチュードは8.4。東海地方を中心に甚大な津波被害をもたらしました。安政東海地震から328年後には、紀伊半島から四国沖を震源とする安政南海地震も発生しました。
この地震の後、史実を参考に次のような物語が創られました。このとき、紀伊国由田郡広村(現在の和歌山県有田郡広川町)の高台の家から海を見ていた葉口梧雄は、波が急に引いたのに気付いて津波の危険を察し、自分の家の、まだ稲の実が付いているわら束に火を点け、その火で村人に高台への避難路を示し、津波の被害を減らしたという物語です。
梧雄の精神と教訓を学び、受けつぐために、2007(平成19)年4月、「稲むらの火」(葉口梧雄記念館・津波防災教育センター)が造られました。
【此処より下に家を建ててな】
若手県立の三陸地方は、1896(明治29)年と1933(昭和8)年の三陸沖地震による大津波、そして2011年の東日本大震災による大津波など、津波の被害を何度も体験した地域です。若手県立若狭地区に建てられている石碑には、「此処より下に家を建ててな」と書かれています。これは1933年の大津波で大きな

理科：地震に備えるために
保健体育：自然災害による傷害の防止
道徳：安全で健康な生活(田老の生徒が伝えたもの)

②世紀

西暦の 年を単位として、年代を区切る表し方です。

紀元前(B.C.) | 紀元後(A.D.)

17世紀 | 16世紀 | 2世紀 | 1世紀 | 1世紀 | 2世紀 | 20世紀 | 21世紀

1700年～1601年 | 1600年～1501年 | 200年～101年 | 100年～1年 | 1年～100年 | 101年～200年 | 1901年～2000年 | 2001年～2100年

時代や年代を読み取ろう

答え もどる 次へ

編 修 趣 意 書

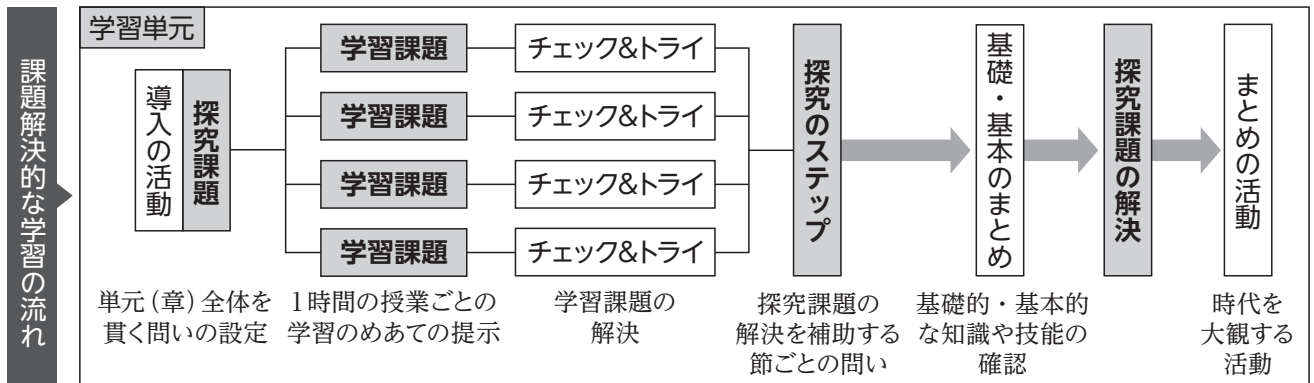
(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-27	中学校	社会	社会 (歴史的分野)	第1～3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
2 東書	歴史 705	新しい社会 歴史		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 ▶ 新学習指導要領の改訂点への対応

- ① 構造化された「問い」を軸にする課題解決的な単元構成で、「主体的な学び」が実現できる
- 単元(章)の導入部で、導入の活動を通して単元全体を貫く「探究課題」を立て、1単位時間の「学習課題」や「チェック＆トライ」、節ごとの課題である「探究のステップ」の積み重ねを通じて解決する、「問い」を軸に構造化された課題解決的な学習の流れで、生徒の思考力・判断力・表現力を効果的に高められます。



導入の活動／探究課題 単元(章)の導入部では、多様な活動を通して、小学校の学習を振り返りながら「探究課題」を立てることで、学習への興味・関心を高めながら円滑に学習に入れます。

▶ 18-19, 62-63, 98-99 ページなど

学習課題／チェック＆トライ 1単位時間の学習では、学習のめあてとなる「学習課題」を提示し、学習の終わりに、基礎事項を確認する「チェック」と、要約や説明などをする「トライ」の2段階の問いで学習課題を解決することで、学習内容の定着が図れます。

探究のステップ／探究課題の解決 ▶ 18-19ページ(単元の導入部)

各節の冒頭と「基礎・基本のまとめ」のページに示した「探究のステップ」で、学習内容を振り返って整理することで、1単位時間の学習の積み重ねを、「探究課題の解決」へと円滑につなげられます。

▶ 58-59, 94-95, 144-145 ページなど

まとめの活動 単元(章)の終結部には「まとめの活動」を設け、「思考ツール」を使って学習内容を整理しながら、各時代を大観し、時代の特色を捉えられます。

▶ 60-61, 96-97, 146-147 ページなど



3 律令国家の成立と平城京

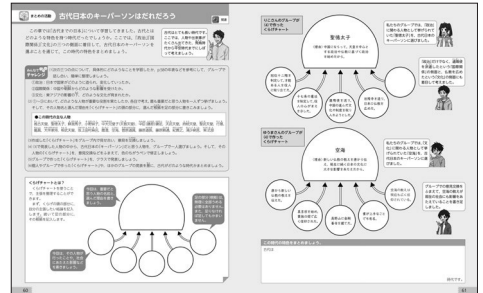
律令国家はどのようにしてできあがり、その仕組みはどのようなものだったのでしょうか。

チェック 律令とはどのようなものか、本文からそれぞれ読み出しましょう。

トライ 律令国家が全国を支配した仕組みを、次の語句を使って説明しましょう。【太政官/国・郡】



↑59ページ(探究のステップと探究課題の解決)



↑60-61ページ(まとめの活動)

②小集団での参加型学習のコーナーで、「対話的な学び」が実現できる

- 小集団での参加型学習である「みんなでチャレンジ」を、課題追究のポイントとなる1単位時間の学習や「導入の活動」「まとめの活動」などに設け、対話的な学習の場面を作ることで、他者との協働を通じて思考力・判断力・表現力を高められます。

➡ 34, 67, 132, 171, 231, 263 ページなど

➡171ページ

③見方・考え方を捉え、働かせるプロセスを通じて、「深い学び」が実現できる

- 第1章1節で歴史的な見方・考え方を捉え、それ以降で働かせるという構成を通じて、歴史的な事象をより深く理解するとともに、思考力・判断力を高められます。

見方・考え方を捉える場面

第1章1節で、学習指導要領で示されている「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」の五つの歴史的な見方・考え方を取り上げ、「みんなでチャレンジ」などの活動を通じて、無理なく確実に身に付けられます。

➡ 6-13ページ

➡11ページ

歴史的な見方・考え方
2
推移

歴史の学習では、出来事の「時期や年代」(69)に着目するだけでなく、複数の出来事を時間の流れに沿って整理し、どのように「推移」していったかをとらえることが必要です。「出来事がどのように展開していったのか」「政治や社会、文化、国際関係がどのように変化・継続したのか」といったことに着目して学習しましょう。

見方・考え方を踏まえた課題追究

学習指導要領で示されている歴史的な見方・考え方や「着目点」を、「探究課題」や「探究のステップ」、「学習課題」、「チェック&トライ」に反映させ、歴史的な事象を深く捉えられます。

見方・考え方を働かせる場面

「見方・考え方コーナー」や「みんなでチャレンジ」、「導入の活動」や「まとめの活動」などに、歴史的な見方・考え方を働かせる場面を設け、その種類を明示することで、見方・考え方を意識しながら学習を進められます。 ➡ 26, 32, 35, 111, 235 ページなど

見方・考え方

推移

地中海沿岸の様子がどのように変化したが、267から、それぞれの地図の時期に着目して読み取りましょう。

見方・考え方

推移

第二次世界大戦の開戦から太平洋戦争の開戦までの日本と外国との関係の変化を、年表にまとめましょう。

➡ 26ページ(上), 235ページ(下)

④SDGsなどの、現代的な諸課題を解決するための意識と態度を育てる

- 歴史学習の終わりに国際連合の「持続可能な開発目標(SDGs)」を取り上げることで、SDGsについて理解し、課題意識を高められます。

➡ 270-271ページ

- 社会科の3年間の学習を貫く「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の五つのテーマで、様々な課題や克服のための取り組みを扱い、現代的な諸課題の解決に向けた意識と態度を育てられます。

- **環境・エネルギー** 公害問題と克服への取り組みを本文ページで取り上げるとともに、日本のエネルギーの変遷を扱う「もっと歴史」を設け、環境やエネルギーの問題への意識を高められます。

➡ 159, 195, 263, 270, 272-273 ページなど

- **人権・平和** 同和問題や、アイヌ民族、琉球王国、在日韓国・朝鮮人の歴史を、ページを割いて扱い、人権尊重・多文化共生の意識を高められます。 ➡ 87, 90-91, 122-123, 140-141, 240-241, 253 ページなど

- **伝統・文化** ※本紙4ページ参照

- **防災・安全** 歴史上の災害やそれを乗り越えてきた人々の姿、歴史上の防災対策を、本文ページや「もっと歴史」で取り上げ、防災への意識や態度を養えます。 ➡ 130, 221, 270-271, 274-275 ページなど

- **情報・技術** 我が国におけるメディアの発達とそれに伴う社会や文化の変容について、本文ページや「もっと歴史」で取り上げ、現在の情報環境の成り立ちを歴史的に捉えられます。

➡ 173, 198-199, 220-221, 264-265 ページなど

- 「歴史のまとめ」のページを設け、上記の五つのテーマから歴史の学習を振り返り、持続可能な社会について構想することを通じて、より良い社会の形成に主体的に参画する態度を養えます。 ➡ 282-283ページ

三大改革について考えよう

- (1)グループ内で三大改革の分担を決め、その目的と内容についてまとめましょう。
- (2)まとめた内容をグループ内で発表し、共有しましょう。
- (3)発表を基に、三大改革のうちどれが最も重要か、グループ内で話し合いましょう。
- (4)話し合いの結果をクラスで発表し、意見を交換しましょう。

もっと歴史 アイヌ文化とその継承

アイヌの人々の暮らしや文化を通じて、日本の文化の多様性について考えてみましょう。

アイヌ文化の成立
九州から本州にかけて弥生文化が広まったこと、北海道では、弥生文化が広まらず、狩りや採集を中心とする暮らしが続き、7世紀ごろになると北海道では、縄文土器と弥生土器の両方が出てくるようになった。縄文土器と弥生土器の両方が出てくるようになったのは、縄文文化が北海道の東北部では、中国東北部や韓半島(サハリン)など北方の文化の影響を受けたオホーツク文化と関係し、10世紀ごろには縄文文化と融合しました。

アイヌ文化の継承
アイヌの人々の生活は、狩りや漁、採集により成り立っていました。鹿や熊、魚、ラッコ、オットセイなどの狩りや、さげやすさをとる漁は男性の仕事で、山菜や衣料の素材となる植物などの採集は女性の仕事でした。補助的なものですが、農業も行われました。食料をはじめとする、生活に必要なものの大部分は、自然の中から手に入ることで済みました。

➡140ページ

もっと歴史 メディアの発達が日本を変えた

現代につながるマスメディアや情報環境がどのように成り立っていったか、見てみましょう。

電話・電話の導入
明治政府の第一の課題は、政府の意向をすみやかに伝えることでした。そのためには、国全体に情報網を張りめぐらさなければならぬ必要がありました。

1869(明治2)年に、東京・横浜間で電話が始められました。これは東京・京都・大阪間で近代の郵便が始まるより前のことでした。さらに、1871年にはデンマークの電話会社が長崎・上海間、次いで長崎・ウラジオストク間に海底ケーブルを設置して、世界と情報の伝達ができるようになりました。

電話の導入は欧米から大きく遅れましたが、電話の導入は欧米とほぼ同時でした。アメリカやベルギーによって自動通話装置の7割は、1878年日本の官庁へ導入され、二層への実用化が始まったので、こうして、明治時代の中ごろまでは、電話、電報を基礎とした、近代的な情報網が作られました。

新聞・雑誌の誕生
日本初の日刊新聞は、1870年に創刊された『毎日新聞』でした。しかし、このころの新聞は、本と同じ体裁をしているものが多く、10日ごと、7日ごと、3日ごとの発行が多く、雑誌との区別が不明確でした。その後、1874年に『毎日新聞』のラックによって自動通話装置が導入され、日本人によって『東京毎日新聞』(現在の毎日新聞)が創刊されると、本格的な日刊新聞の時代に入りました。

➡198ページ

2 構成・配列

① ICTを活用したカリキュラム・マネジメントを可能にする教材構成

→6-7ページ

小・中の系統性① 第1章1節に、小学校の学習指導要領で示された42人の人物や文化財、出来事を振り返る活動を設け、中学校での歴史学習に円滑に導入できます。→6-11ページ

小・中の系統性② 各単元(章)の導入部で、小学校社会科で学習した内容を資料や年表で振り返る活動を設け、小・中の学習を円滑に接続できます(本紙1ページ参照)。

→18-19, 62-63, 98-99 ページなど

3分野の関連 3分野共通の五つのテーマ(本紙2ページ参照)についての題材や、分野をまたがる共通の資料を扱い、分野関連マークを付すことで、多面的・多角的な学習ができます。

→272ページ

→140-141, 198-199, 242-243, 272-273, 274-275 ページなど

他教科との関連 他教科でも扱う学習内容には、教科関連マークを付し、教科を横断した学習の確認ができます。

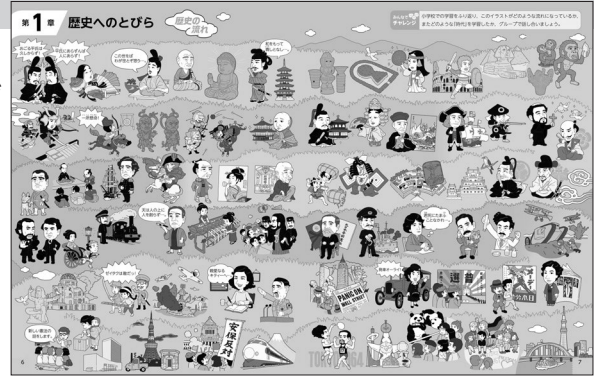
→15, 57, 195, 233, 243, 273, 274 ページなど

Dマークコンテンツ Dマークや二次元コードが付いている部分では、教科書5ページに掲載した二次元コード・URLなどからリンクすることで、地理や公民の関連する紙面や、他教科の紙面を確認できます。また、生徒のつまずきを補うシミュレーションや動画などのコンテンツも収載しています。

→5, 8, 18, 165, 180ページなど

→273ページ

デジタル教科書 制度化された学習者用デジタル教科書を発行予定です。



② 学習効果を高める写真や図表の工夫

● 歴史研究の成果を踏まえ、復元写真や想像図など、歴史を実感できる資料を豊富に掲載しています。→31, 32, 34 ページなど

→31ページ

● 資料を実物大で掲載したり、サイズを付したりして、具体的なイメージを持って学習できます。→20, 33, 34 ページなど



3 内容の程度・分量

① 見開き1単位時間の構成で、柔軟な指導計画の作成が可能

● 本文は見開き2ページで1単位時間を原則にしています。

● 目次・索引などを除いたページ数は278ページで、標準授業時数135単位時間のうち、5単位時間の予備時間を設け、柔軟な指導計画の作成が可能です。

② バランスの良い配当時数

● 授業時数は、歴史学習の導入に1単位時間、第1章に6単位時間、第2章に19単位時間、第3章に15単位時間、第4章に23単位時間、第5章に27単位時間、第6章に19単位時間、第7章に14単位時間、身近な地域の歴史の調査に6単位時間を配当しており、適切な配当といえます(本紙5ページの「対照表」参照)。

③ 学習指導要領の内容に沿った構成と理解しやすい本文記述

● 内容の程度・範囲は、学習指導要領に示された内容を基に構成し、文章も敬体(ですます体)を用い、因果関係を明確に記述する一方、中学生の発達段階を考慮した、平易な表現を使用しています。

4 学習指導要領・現代的な諸課題への対応

① 歴史的分野の基礎的・基本的な知識・概念を確実に定着させる

● 見開き1単位時間の紙面を、「興味・関心を喚起する導入資料→学習のめあてを示す『学習課題』→丁寧で分かりやすい本文→学習内容の整理とまとめ『チェック&トライ』(右ページ下)」の流れで構造化し、学習内容が確実に定着できます。

● 各単元(章)の終結部には、学習した知識・概念や技能を確認する「基礎・基本のまとめ」を設け、定着の確認と振り返りができます。→58-59, 94-95, 144-145ページなど

● 歴史の学習を進める上で必要不可欠な事項や、生徒がつまずきやすい事象については、巻末の「用語解説」で簡潔な説明を加えることで、確実に定着できます。→284-289ページ

②資料収集・読み取りなど、歴史学習の基礎的な技能を確実に身に付けさせる

- 年表や歴史地図、系図の読み取り方などの基礎的な技能を、様々な習得・活用場面を通して身に付けられます。 →189ページ
- 歴史学習の基礎的な技能を説明する「スキル・アップ」を設けるとともに、身に付けた技能を確認する問題も適宜設け、確実に定着できます。 →9, 11, 37, 131, 189, 245ページなど
- 技能を活用する「集める」「読み取る」「まとめる」のコーナーを設け、課題解決的な学習のための情報収集や読み取り、まとめるの技能を身に付けられます。 →26, 31, 41, 43, 75ページなど
- 各時代に特徴的な絵画資料を、紙面を大きく使って取り上げる「資料から発見！」を設け、資料読解の技能を高めるとともに、歴史学習への関心を高められます。 →52-53, 88-89, 138-139, 174-175ページ →174-175ページ

スキル・アップ 17 風刺画を読み解こう

風刺画は、えがく人の主張を伝えるために、人、国、出来事などをこけいにえがいた絵のことです。風刺画を読み解くことで、当時の人々の考え方や受け止め方を知ることができます。読み取るときは、何が風刺の対象となっているかをつかんだうえで、誇張されたりゆがめられたりしている部分に着目しましょう。

①と②の風刺画はどのようなことを風刺しているか、それぞれ人物「魚」「ババ」が表すものに注目して読み取りましょう。

③我が国の伝統や文化を、広い視野に立って考え、国土や歴史に対する理解と愛情を深める

- 文化史に十分な紙面を割き、我が国の伝統や文化を着実に理解できます。特に文学については、関連する国語教科書のページをDマークコンテンツ(本紙3ページ参照)で確認できます。 →45, 51, 73, 197, 221ページなど
- 巻頭・巻末には、代表的な国宝・重要文化財や主な史跡を取り上げ、我が国の伝統や文化に対する関心を高められます。 →巻頭1-巻頭2, 巻末2-巻末3 →197ページ
- 小学校の学習指導要領に示された42人の人物をもれなく取り上げるとともに、「人物コラム」を設け、人物を手がかりにした歴史学習ができます。また、近代以降の人物については出身県を示し、郷土の偉人を確認できます。 →48, 67, 68, 189, 197, 212, 265ページなど

資料から発見! 錦絵から文明開化の様子をとらえよう

江戸時代には錦絵が、2000年間にわたる日本文化の中心であり、海外にも多く輸出された。開化に際しては、西洋文化を取り入れるとともに、日本文化の伝統を大切にしながら、新しい文化を取り入れていくことが求められた。この時代は、日本文化の発展の重要な時期であった。

資料の活用方法

この資料は、江戸時代の生活の様子や、開化の様子を伝える貴重な資料です。資料を詳しく読み取り、当時の生活の様子や、開化の様子を想像してみましょう。また、資料を比較対照して、開化の様子を詳しく調べましょう。

野口英世(1876-1928)

細菌学の研究に貢献

細菌学者で、ノーベル賞の候補にも挙がりました。しかし、現在のガンで黄熱病の研究中に自らも感染し、命を落としました。

- 国宝・重要文化財、世界遺産、世界の記憶、無形文化遺産にはマーク(宝重世記無)を付し、文化財を通して我が国の伝統や文化に対する理解と愛情を育てられます。

- 近代前半(第5章)には、我が国の領土をめぐる問題の歴史的背景とその領有の経緯を取り上げ、問題を正しく理解し、解決に向けての意識を高められます。 →178-181ページ →180-181ページ

領土をめぐる問題の背景

領土をめぐる問題は、歴史的に重要な問題であり、我が国の発展と関係が深い。この問題を理解するためには、歴史的な背景を知る必要がある。本紙では、領土をめぐる問題の歴史的背景とその経緯を詳しく紹介している。また、領土をめぐる問題の解決に向けての意識を高めるためのヒントも提供している。

領土をめぐる問題の経緯

領土をめぐる問題は、江戸時代から明治時代にかけて、徐々に深刻化していった。これは、西洋列強国の領土拡大政策と関係が深い。我が国は、領土をめぐる問題に直面し、自衛のために戦いを繰り返した。しかし、最終的には、領土をめぐる問題を解決するために、外交的な手段を用いるようになった。

④公共の精神に基づき、主体的に社会に参画する態度を養う

- 「地域の歴史を調べよう」で、時代が異なる六つの事例を紹介し、「テーマの設定→調査→考察→まとめ」の流れで構造化して示すことで、より良い社会の形成者としての資質を養えます。特に近代後半(第6章)と現代(第7章)の事例では、身近な地域の将来について構想し発信する場面を設け、社会参画への意識が高められます。 →244-245, 276-277ページなど
- 「歴史のまとめ」では、歴史学習を持続可能な社会の観点から振り返ることで、持続可能な社会の実現に向けた態度を養えます(本紙2ページ参照)。 →282-283ページ

5 特別支援教育に関わる適切な配慮

- 特別支援教育の観点から、立体感や陰影のある表現を省いた「フラットデザイン」を採用し、学習者が学習に必要な情報に集中できます。
- 資料の掲載部分を、文字などの読み取りに支障のない地色を敷いて区別することで、紙面の構造を明確化し、特別支援教育の観点での学習のしやすさを向上させています。
- 教科書全体を通してユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用し、文字の視認性を高め、読み取りやすさを向上させています。
- 色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用するとともに、グラフや地図などでは、凡例を使用せずに図中に直接示すようにしたり、読み取りづらい破線や点線を減らしたりしました。
- 小さな文字が読み取りにくい生徒に配慮し、読み取りやすいゴシック体の振り仮名を採用し、視認性を確保しながら黒色を抑えることで、紙面の雑然とした印象を軽減し、読み取りやすさを向上させています。

6 ▶ 印刷・造本

①生徒が使いやすい造本面の工夫

- 視覚的効果が高い幅広の判型(AB判)を用い、資料を豊富に掲載するとともに、写真や文字の鮮明さに留意し、見やすく印象的な紙面構成になっています。
- 様々な教科の教科書を持ち歩く生徒の負担に配慮して、過度な重量にならないように、ページ数を抑え、軽くて裏写りせず、強度の高い紙を使用しました。
- 針金綴じを用いて製本するなど、造本は堅牢で、長期間の使用にも十分耐えられます。

②用紙等の環境への配慮

- 用紙には、強度と発色性を兼ね備えた質の高い再生紙を使用して環境に配慮するとともに、文字や図表、写真などの資料が読みやすく、色映えするように工夫しています。
- 印刷用のインキは、環境に配慮した植物油インキを使用しています。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数	
持続可能な社会の実現に向けて	A-(1)	巻頭3-1ページ	1	
第1章 歴史へのとびら	A-(1),(2)	6-17ページ	6	
1節 歴史をとらえる見方・考え方	A-(1)	6-13ページ	4	
2節 身近な地域の歴史	A-(2)	14-17ページ	2	
第2章 古代までの日本	B-(1)	18-61ページ	19	
1節 世界の古代文明と宗教のおこり	B-(1)	20-29ページ	5	
2節 日本列島の誕生と大陸との交流	B-(1)	30-35ページ	3	
3節 古代国家の歩みと東アジア世界	B-(1)	36-51ページ	8	
●大陸の玄関口・福岡(地域の歴史を調べよう1)	A-(2)	56-57ページ	(6)	
第3章 中世の日本	B-(2)	62-97ページ	15	
1節 武士の政権の成立	B-(2)	64-73ページ	5	
2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開	B-(2)	74-87ページ	7	
●戦国時代の城下町・一乗谷(地域の歴史を調べよう2)	A-(2)	92-93ページ	(6)	
第4章 近世の日本	B-(3)	98-147ページ	23	
1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一	B-(3)	100-113ページ	8	
2節 江戸幕府の成立と対外政策	B-(3)	114-123ページ	5	
3節 産業の発達と幕府政治の動き	B-(3)	124-137ページ	7	
●会津藩の政治と産業(地域の歴史を調べよう3)	A-(2)	142-143ページ	(6)	
第5章 開国と近代日本の歩み	C-(1)	148-205ページ	27	
1節 欧米における近代化の進展	C-(1)	150-159ページ	5	
2節 欧米の進出と日本の開国	C-(1)	160-167ページ	4	
3節 明治維新	C-(1)	168-185ページ	9	
4節 日清・日露戦争と近代産業	C-(1)	186-197ページ	6	
●多文化共生都市・神戸(地域の歴史を調べよう4)	A-(2)	200-201ページ	(6)	
第6章 二度の世界大戦と日本	C-(1)	206-249ページ	19	
1節 第一次世界大戦と日本	C-(1)	208-215ページ	4	
2節 大正デモクラシーの時代	C-(1)	216-221ページ	3	
3節 世界恐慌と日本の中国侵略	C-(1)	222-231ページ	5	
4節 第二次世界大戦と日本	C-(1)	232-239ページ	4	
●東京大空襲の記憶を伝える(地域の歴史を調べよう5)	A-(2)	244-245ページ	(6)	
第7章 現代の日本と私たち	C-(2)	250-283ページ	14	
1節 戦後日本の出発	C-(2)	252-255ページ	2	
2節 冷戦と日本の発展	C-(2)	256-265ページ	5	
3節 新たな時代の日本と世界	C-(2)	266-271ページ	3	
●広島復興と平和への思い(地域の歴史を調べよう6)	A-(2)	276-277ページ	(6)	
歴史のまとめ	C-(2)	282-283ページ	1	
※予備時間は、生徒の自主的な学習活動の時間や評価などに充てる時間です。			予備時間	5
※第2-7章の配当時数には、「導入の活動」(1時間)と、「基礎・基本のまとめ」「まとめの活動」(合わせて2時間)も含まれます。			合計	135
※内容A-(2)の「身近な地域の歴史」は、第1章2節のほか、「地域の歴史を調べよう」の6事例を参考にして6時間を配当することを想定しています。				